

保育科学生における対人関係価値の発達的特質*

平 松 芳 樹

問 題

個人の行動は、その個人のもっている基礎的な動機づけの型 (basic motivational pattern) すなわち価値によって影響される面が多い。Gordon (1960) が開発し、菊池 (1963) によりわが国に紹介された KG-SIV (菊池・Gordon Survey of Interpersonal Value) は、人間関係ないし対人関係における価値観に着目し、それを測定するスケールとして有用であることが認められている。筆者は SIV を適用し、志望専攻を異にする学生のグループの間に対人関係価値の相違がみられることについて、本紀要第三号に述べた (平松1972)。すなわち保育科学生に他科と比べて特徴的相違がみられた。この時併せて保育科1・2年生を比較して、学年の進行にともなう発達的变化を推論したのであるが、ここでは今年度の新資料を加えて、保育科学生の対人関係価値の発達的特質を検討する。

手続と方法

1971年12月の資料 (保育科1年75, 同2年33, 音楽科1年56, 家政科1年34, 英文科1年24名) および、1972年9月に調査した保育科1年85, 同2年75名の資料を比較検討した。尚、SIVの概要その他手続・方法については、前報の紀要第三号に詳細を掲げたので参照していただきたい。SIVでは、対人関係の価値領域は次の6つに分類され、われわれはこれを多くの場合に適用してきた。以下参考のためごく短かくそれらの価値領域を記述しておく。

支持 (Support) : 他の人々から理解をもって扱われ、勇気づけられる。親切や思いやりをもって扱われる。

同調 (Conformity) : きちんと規則に従い、社会的に当を得た行動をする。他の人々から受け入れられる妥当な行動をする。

承認 (Recognition) : 他の人々から尊敬され、賞讃され、重要な存在として考えられる。他の人々の好ましい注意をひき、承認をうける。

独立 (Independence) : 自分の思うように行動する権利をもつ。自分自身の決定を自由にする。自分独自のやり方で行動できる。

博愛 (Benevolence) : 他の人々のためになることをする。共に分けあい不幸な人々に助力の手をさしのべ、寛大である。

指導 (Leadership) : 他の人々の行動に責任をもつ。他の人々の上に立つ。リーダーとしての位置につく。

*The developmental feature of interpersonal values in the students of Child Nursing Division.

結果と考察

保育科学生には他の科学生より「博愛」で高く、「承認」で低いという点で異なった特徴がみられたが、このことについては昨年の報告においてふれた。その場合、保育科としては1・2年生全体の資料を用い、他科はすべて1年生であった。しかし後に述べるように入学年度による差のことも考慮すれば、標本誤差の介入も考えられるので、同一学年内における専攻の影響をより厳密に比較するため、保育科2年生を除いて、各価値領域別の比較結果を改めて Table 1 に提示する。

Table 1 保育科学生とその他学科学生（音楽・家政・英文）の SIV 得点平均と標準偏差および差の検定

学 科	n		S	C	R	I	B	L
保 育 科	75	M	16.5	17.6	8.4	17.1	19.3	11.1
		SD	(4.0)	(3.9)	(3.1)	(4.7)	(4.2)	(3.7)
その他学科 合 計	112	M	16.1	18.3	9.7	17.0	17.6	11.5
		SD	(4.5)	(4.3)	(3.7)	(5.8)	(5.4)	(4.1)
差			0.4	-0.7	-1.3	0.1	1.7	-0.4
有 意 水 準			ns	ns	0.02	ns	0.05	ns

このように同一学年内の比較でも、結果は殆んど以前の傾向と同様である。すなわち、保育科学生はB（博愛）で有意に高く（ $t=2.297$ $df=185$ $p<.05$ ），R（承認）で有意に低い（ $t=2.500$ $df=185$ $p<.02$ ）ことが確かめられた。すなわち他学科の学生よりも、対人関係において「他の人々のためになることをする。共に分けあい不幸な人々に助力の手をさしのべ、寛大である」ことを重要視する度合が高く、「他の人々から尊敬され、賞讃され、重要な存在として考えられる。他の人々の好ましい注意をひき、承認をうける」というような面を重要視する度合が相対的に低いといつてよい。

次に Table 2 に示したものが、保育科学生の対人関係価値における発達の実状である。46年度生の1年次と2年次との比較を同一グループで行なった。この条件に統制するため両方の資料が揃わない者は除いたので、人数は減った。

Table 2 保育科46年度生の1年次と2年次における SIV 得点平均と標準偏差および差の検定

年 次	n		S	C	R	I	B	L
1 年 次	59	M	16.9	17.4	8.4	16.8	19.4	11.1
		SD	(4.0)	(3.6)	(3.0)	(4.7)	(4.1)	(3.6)
2 年 次	59	M	16.5	17.1	8.6	16.8	18.7	12.3
		SD	(4.7)	(4.0)	(3.5)	(4.9)	(4.7)	(4.5)
差			0.4	0.3	-0.2	0.0	0.7	-1.2
有 意 水 準			ns	ns	ns	ns	ns	ns(0.2)

どの価値領域にも有意差は認められなかったが、B（博愛）でやや減少するようであることと、L（指導）の増加傾向がみられる。

そこで一人づつ個別に資料にあたって、その増加（上昇）あるいは減少（下降）という方向性について分析した。Bでは、2年次になると減少したものが31名、増加したものが25名、変わらないものが3名であった。これは臨界比（CR）には有意差が認められない（CR=0.801）。またLでは、増加31名、減少19名、変化なし9名であり、片側検定ながら5%レベルの有意差がみられた（CR=1.697）。短期間（10カ月）の比較であったため発達的变化が顕著にはみられなかった。入学時と卒業時の比較あるいは卒業後のフォローアップを試みるならば、より顕著な発達的特質がはっきりとされるものと考えられる。尚、参考までに、46年度生と47年度生のいずれも1年次におけるSIV得点の平均を比較してTable 3に提示した。S（支持）に有意差があり（ $t=2.343$ $df=158$ $p<.02$ ）、C（同調）に有意差がみられた（ $t=2.153$ $df=158$ $p<.05$ ）。これらは入学年度による差であり、その年度のグループの特質があらわれているといえる。

Table 3 保育科46年度生と47年度生の1年次におけるSIV得点平均と標準偏差および差の検定

年 度	n		S	C	R	I	B	L
46年度生 (1971)	75	M	16.5	17.6	8.4	17.1	19.3	11.1
		SD	(4.0)	(3.9)	(3.1)	(4.7)	(4.2)	(3.7)
47年度生 (1972)	85	M	15.0	19.0	8.1	15.6	20.7	11.5
		SD	(4.1)	(4.2)	(3.7)	(5.0)	(3.5)	(4.3)
差			1.5	-1.4	0.3	1.5	-0.6	-0.4
有 意 水 準			0.02	0.05	ns	ns(0.1)	ns	ns

文 献

Gordon, L.V. Manual for Survey of Interpersonal Values. Science Research Associates, 1960.

菊池章夫 対人関係価値の測定(1). 福島大学学芸学部論集, 1963, 8-14.

平松芳樹 志望専攻別対人関係価値の比較研究—短大生の場合—, 中国短期大学紀要第3号, 1972, 33-40.

<付記>

本稿は、中国四国心理学会第28回大会（於高知大学、1972年11月24日）で口頭発表したものに加筆修正をしたものである。御指導いただいた岡山大学大羽教授に心から感謝申し上げます。

ABSTRACT

The purpose of this study is to investigate the developmental feature of interpersonal values in the students of Child Nursing Division. The data of junior college students were collected by using the Survey of Interpersonal Values. The inclusive list of the subjects is as follows :

Division of Child Nursing

1971 Freshmen n=75, Sophomores n=33

1972 Freshmen n=85, Sophomores n=75

Division of Music

1971 Freshmen n=56

Division of Home Management

1971 Freshmen n=34

Division of English Literature

1971 Freshmen n=24

Means, standard deviations and mean differences for the students of Child Nursing Division (n=75) and the others (total of Music, Home Management and English Literature. n=112) were presented in Table 1. Mean scores of Benevolence are 19.3 and 17.6. Difference of both scores is statistically significant ($t=2.297$ $df=185$ $p<.05$). Significant difference is also found on Recognition (mean scores are 8.4 and 9.7, $t=2.500$ $df=185$ $p<.02$).

Means, standard deviations and mean differences between Freshmen and Sophomores were presented in Table 2. There are no significant differences in every value domains. But it was found a significant increase in Leadership by examining of one pair comparison ($CR=1.697$ $p<.05$).

Moreover, developmental problemes concerning about the interpersonal relations of junior college students were discussed.